

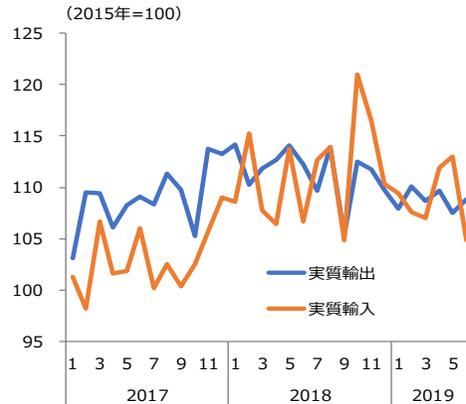
日本

貿易統計（2019年6月）

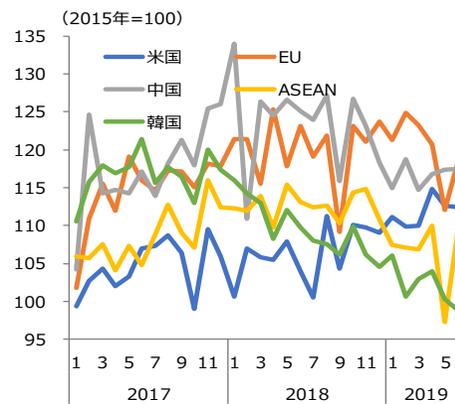
－実質輸出はアジア向けを中心に減少傾向が継続－

政策・経済研究センター
綿谷謙吾・田中康就
03-6858-2717

1 実質輸出入



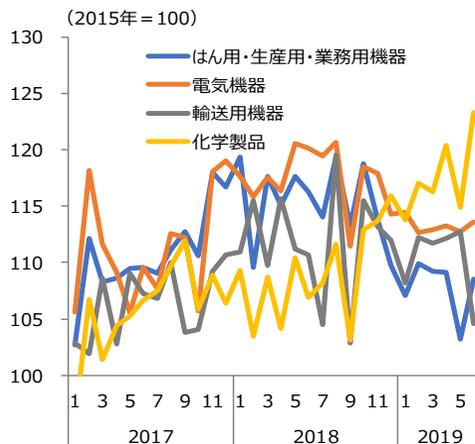
2 実質輸出：国別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

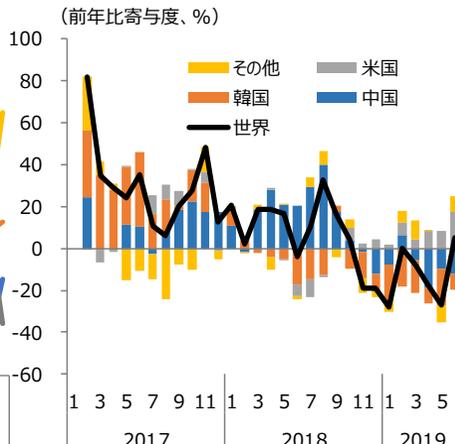
3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 半導体製造装置の実質輸出



評価ポイント

今回の結果

- 19年6月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+1.3%のプラス。実質輸入は、前月比▲7.2%と減少に転じた。貿易収支（季節調整値）は、▲144億円と、12ヶ月連続で赤字。
- 実質輸出は四半期ベースで、19年4-6月期は前期比▲0.2%と、小幅ながらも2四半期連続で減少。実質輸入は、同+1.8%となった。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国別で見ると、中国（前月比+0.1%）はほぼ横ばいとなった。ASEAN（同+12.7%）は、前月に大幅に減少した反動もあり、化学製品を中心に幅広い品目が大幅に増加しているが、均してみると減少傾向にある。EU（同+5.9%）も増加したが、均してみると減少傾向にある。米国（同▲0.3%）は、増加基調は維持しているもの、輸送用機器の減少が全体を押し下げ、小幅ながらも2ヶ月連続で減少。
- 半導体製造装置の実質輸出は、前年比+5.0%と8ヶ月ぶりの増加となったが、均してみると減速傾向にある。米国向けが伸びを高め全体を押し上げたが、米中貿易摩擦や半導体関連需要調整の影響から、中国向けや韓国向けの減少が続いている。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、19年後半にかけて緩やかな減少が予想される。米中貿易協議は再開されたが、米国による中国ハイテク製品排除の動きもあり、半導体関連需要の底入れは20年前半に後ずれする可能性が高まっている。米国の対中関税第3弾の影響の顕在化により、中国経済の減速傾向も継続する見込みから、中国向け輸出は減速となろう。
- さらなる下振れリスク要因として、①米中貿易協議の一段の激化、②中国をはじめとする海外経済のさらなる減速、③一段の円高の進行、④日米物品貿易協定（TAG）交渉の行方、が挙げられる。